

## 1000人が回答！「キャリアと転職」に関する意識調査 「非正規で働いた経験あり」氷河期世代の46.1%

～政府の氷河期世代支援策を「評価する」氷河期世代は49.1%にとどまる～

日経HR（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：篠原昇司）は2020年1月下旬から2月上旬にかけて、転職サイト「日経キャリアNET」の登録会員を対象に「キャリアと転職」に関する意識調査を実施し、1076人から回答を得ました。

政府が正社員化の支援に乗り出し、国や自治体で実施した採用に応募が殺到するなど、その動向が注目を集め始めた「氷河期世代」。今回の調査では、その氷河期世代をクローズアップし、新卒時の就職活動の満足度、現在の仕事の満足度をはじめ、新卒時の雇用形態の割合などを、「バブル世代」「ゆとり世代」を加えた3世代で比較した結果を交えながら紹介します。

### ■「非正規で働いた経験」の有無

○氷河期世代の「46.1%」が3世代で最多

>> 詳細は2ページ

### ■「現在の仕事」「新卒時の就職活動」の満足度

○氷河期世代、新卒就職活動は「非常に不満」が23.6%

>> 詳細は3ページ

### ■将来に一番不安に感じていること

○氷河期世代は「働けなくなることへの不安」が3世代で最多

>> 詳細は5ページ

### ■政府の「氷河期世代」向け就職支援策への評価

○氷河期世代「大いに評価する」は17.6%にとどまる

>> 詳細は6ページ

#### < 調査概要 >

◎調査対象：「日経キャリアNET」登録会員（24～55歳）

◎調査期間：2020年1月下旬～2月下旬

◎調査方法：メールにて依頼し、Webサイトで回答

◎回答者数：1076人

問い合わせ先

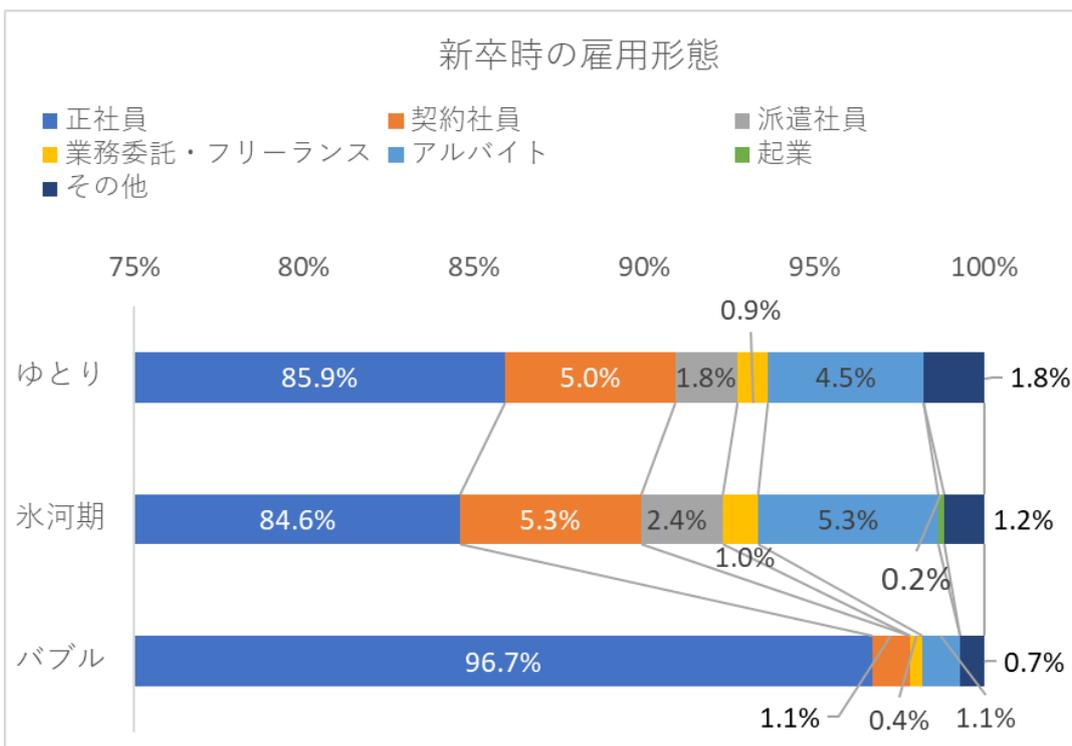
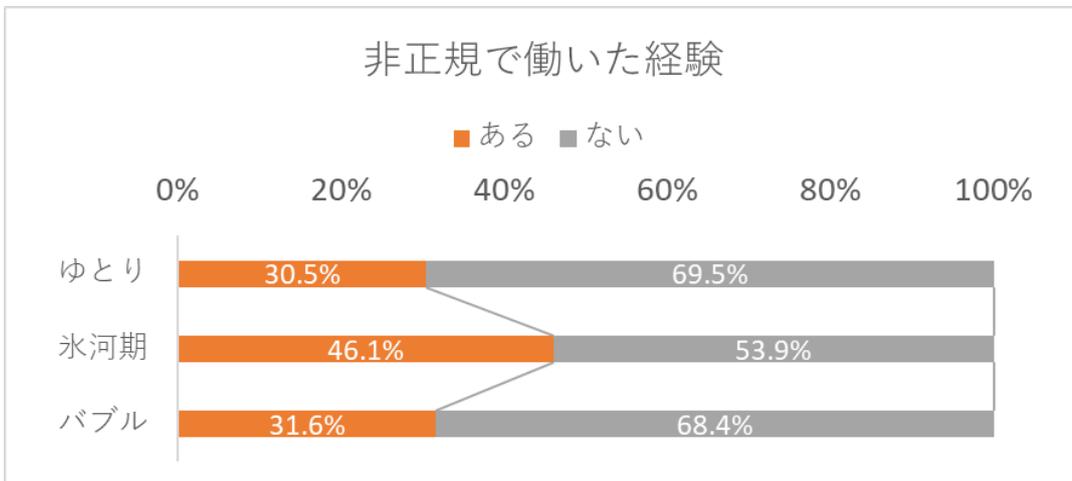
株式会社日経HR コンテンツ事業部 制作グループ TEL：03-6812-7308

■非正規で働いた経験の有無  
 「非正規で働いた経験」は氷河期世代の46.1%が最多  
 ～新卒時の非正規率は「ゆとり世代」と変わらない～

非正規で働いた経験の有無について、氷河期世代の46.1%が「ある」と回答しました(バブル世代31.6%。ゆとり世代30.5%)。新卒時には正規社員で入社した人は84.6%と、ゆとり世代(85.9%)とあまり差はありませんでした。

現在就業中の企業規模を見ると、氷河期世代は1000人以上の大企業の割合が39.8%で最も低く、また、業種別就業者を見ても、全体では就業者数の多い「電機・電子部品・半導体」と「銀行」で、氷河期世代の比率が極端に低くなっています。(7ページの回答者属性参照)

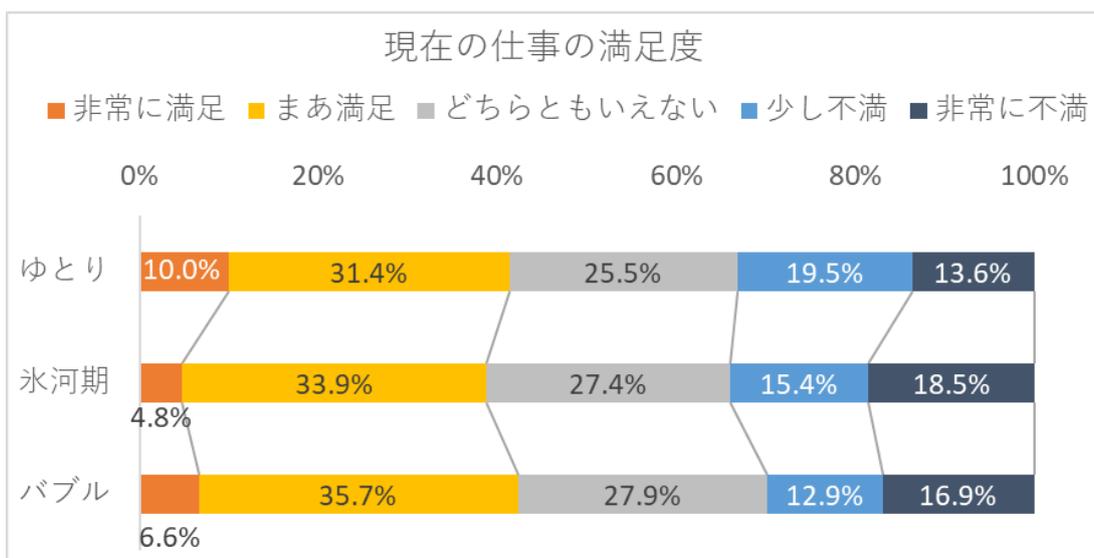
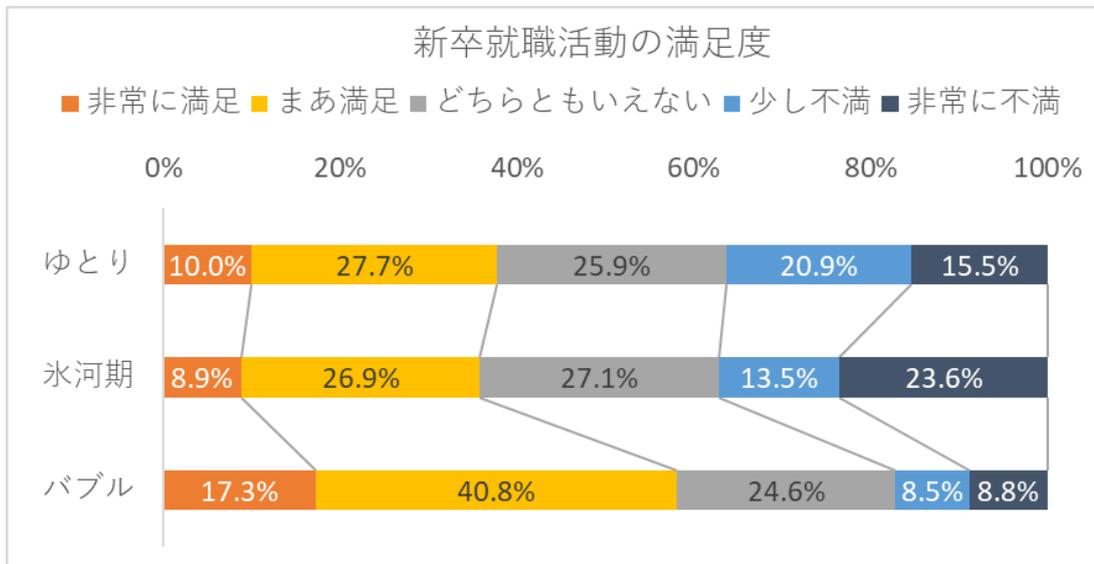
この結果から、新卒時には希望しない企業に就職したものの離職し、転職時に非正規雇用を経験した人が多いと思われます。



■ 「現在の仕事」「新卒就職活動」の満足度  
氷河期世代、新卒就職活動は「非常に不満」が23.6%  
～「現在の仕事」では「満足」が不満を上回る～

「新卒時の就職活動の満足度」を振り返ってもらったところ、「非常に不満」と回答した人は氷河期世代が23.6%で最多(バブル世代8.8%。ゆとり世代15.5%)。氷河期世代は「少し不満」(13.5%)と合わせると、「不満」が37.2%(バブル世代17.3%。ゆとり世代36.4%)でした。反対に「満足」(「非常に満足」と「まあ満足」の合計)は氷河期が35.8%、バブルが58.1%、ゆとりが37.7%となり、氷河期だけが「満足」を「不満」が上回りました。

「現在の仕事の満足度」は、「満足」が氷河期38.7%、バブル42.3%、ゆとり41.4%、「不満」が氷河期33.9%、バブル29.8%、ゆとり33.1%となり、氷河期は新卒就職活動で「不満」が多かったものの、現在の仕事では「満足」している人が増えました。一方、バブルは「不満」が新卒就職活動の17.3%から現在の仕事では29.8%と大きく増えました。



氷河期世代の新卒就職時の「不満」の声と、現在の仕事の「満足」の声を以下で紹介します。

**【新卒就職活動時「非常に不満」】**

- ・大学入学時はバブル絶頂時で入学が非常に困難で浪人を経験した。卒業時はバブル崩壊後最初の大きな谷になり、最高の出生者数の年でもあったため「去年なら採用できたけど」という声まで聞くほどの就職難であった。(男性、48歳)
- ・就職活動をしていても内定をもらえず、途中で諦め、就職活動をやめた。(男性、43歳)
- ・就職氷河期の底に当たる時期であり、応募したい企業に採用自体がなかった。また競争倍率が異常な状況の中で不本意な形での就業となった。(男性、43歳)
- ・氷河期ど真ん中、工学修士の女子にとっては男子以上に厳しい就職活動を強いられた。セミナーは男尊女卑、面接では「女子不要」「女子なら高卒でいい」など言われた。(女性、43歳)
- ・海外留学しており、当時は秋採用や通年採用、第二新卒採用などを行っている企業がなかったから帰国後に応募できる企業自体がなかった。(女性、42歳)
- ・文学部の女性というだけで、会社説明会の知らせもこなかったし、エントリーシートすら受け付けてくれなかった会社が多かった。(女性、46歳)

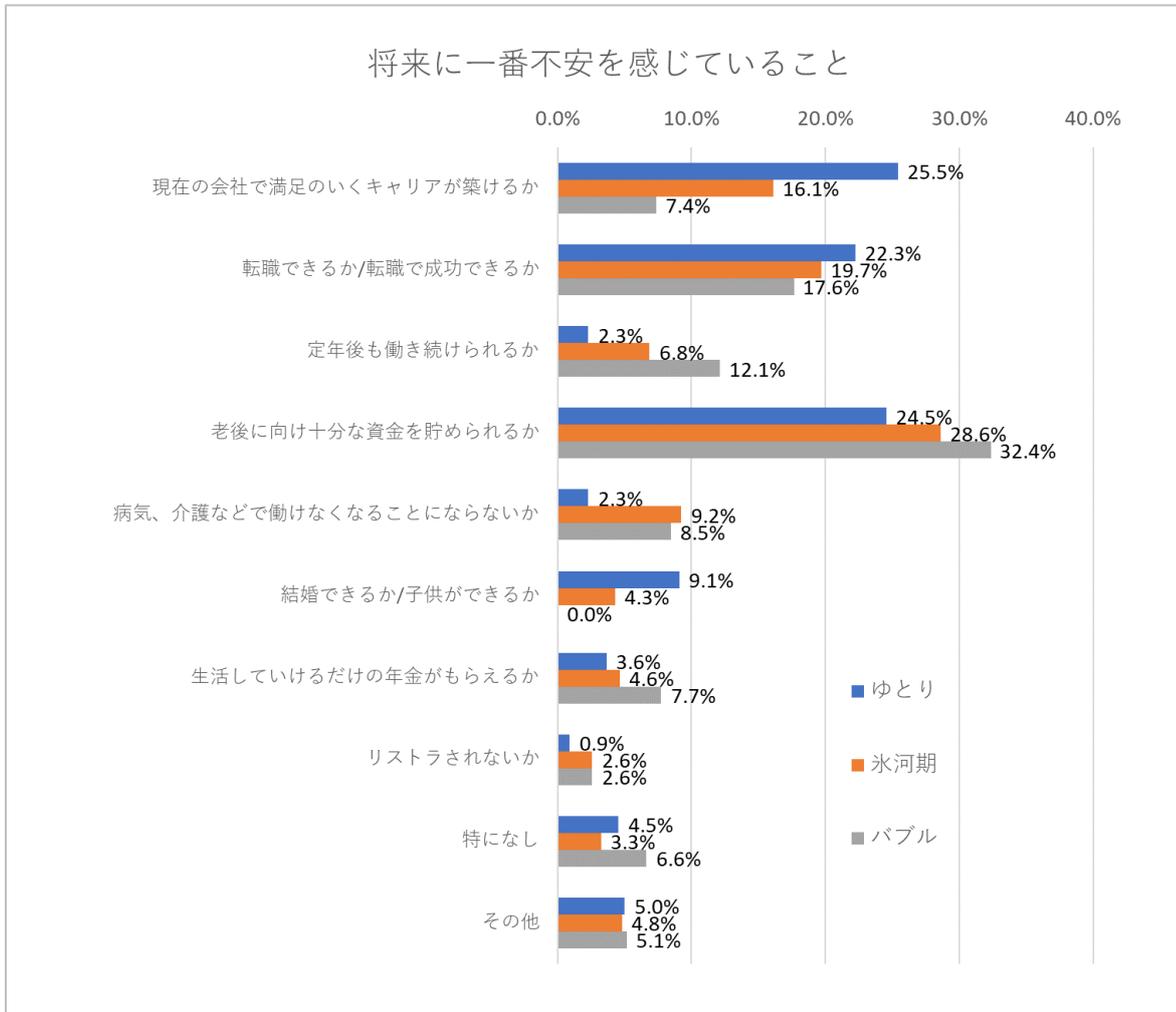
**【新卒就職活動時「不満」→現在の仕事「満足」】**

- ・大学時に興味を持っていたことを仕事にすることができているので。(男性、42歳)
- ・社会に貢献している。自分が成長している。(男性、49歳)
- ・やりたい事ができているし、有給なども取りやすい。今年から在宅勤務も試験的にできるようになった。(男性、47歳)
- ・新卒の時とは全く違う分野の資格を取り、それを活かして働くことができたので。(女性、47歳)
- ・契約社員として入社し、その後正社員に登用してもらったので、会社に対して感謝しかない。また、この会社は、私が高校生の時に友達とふざけて「入りたい(無理だろうけど)」と言っていた会社なので本当に夢が叶った。(女性、40歳)
- ・大学を卒業してからの失敗を踏まえて、10年かけて準備してきた結果が、報われているから。(女性、37歳)

■将来に一番不安を感じていること  
 氷河期世代とバブル世代は「老後の資金」、ゆとり世代は「今後のキャリア」  
 ～氷河期世代は「働けなくなることへの不安」が3世代で最多～

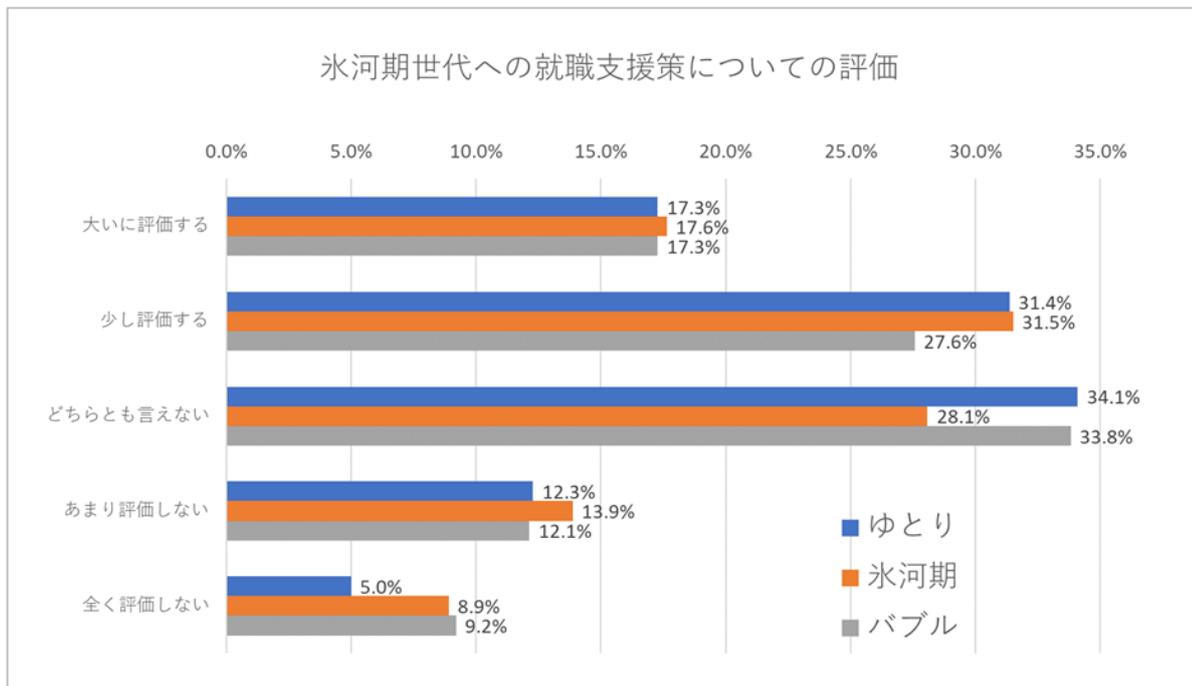
「将来に一番不安を感じていることは何か」という質問への回答は、氷河期世代が「老後に向け十分な資金を貯められるかどうか(28.6%)」「転職できるか/転職で成功できるか(19.7%)」「現在の会社で満足のいくキャリアが築けるか(16.1%)」の順。バブル世代は「老後に向け十分な資金を貯められるかどうか(32.4%)」「転職できるか/転職で成功できるか(17.6%)」「定年後も働き続けられるか(12.1%)」、ゆとり世代は「現在の会社で満足のいくキャリアが築けるか(25.5%)」「老後に向け十分な資金を貯められるかどうか(24.5%)」「転職できるか/転職で成功できるか(22.3%)」と続きます。

3世代とも「老後に向け十分な資金を貯められるかどうか」への不安が高く、老後に対する不安は世代を超えて共通のようです。ゆとり世代は今後のキャリア構築など、上位に挙げた不安要素が同じぐらいの割合でわかれる結果となりました。



■政府の「氷河期世代」向け就職支援策の評価  
 氷河期世代「大いに評価する」は17.6%にとどまる  
 ～3世代とも「大いに評価する」「少し評価する」の合計が約半数～

政府の就職支援策をどのように評価するかについて、「大いに評価する」は氷河期世代17.6%、バブル世代とゆとり世代が17.3%と、3世代がほぼ同じ割合になりました。「少し評価する」は氷河期世代が31.5%、バブル世代が27.6%、ゆとり世代が31.4%。「大いに評価する」「少し評価する」の合計の割合は3世代とも「全く評価しない」「あまり評価しない」の合計を上回りましたが、過半数とはなりません。氷河期世代の「評価する」声と「評価しない」声を以下で紹介합니다。



【「評価する」】

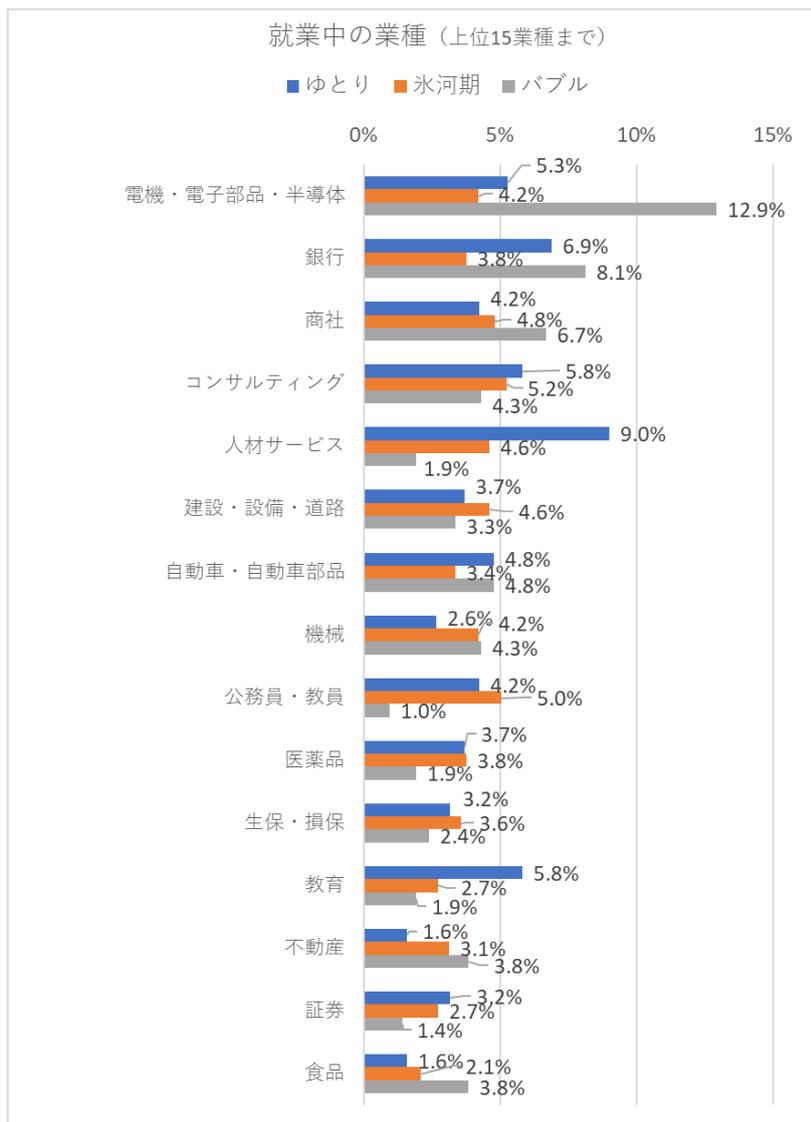
- ・実際に非正規で働いている人が多い（男性、41歳）
- ・人口と年齢の推移をみて、確実に陣頭指揮をとる働き手が少なくなる。（男性、40歳）
- ・正社員として働きたいので機会が設けられるのは嬉しい。（男性、40歳）
- ・自分が超氷河期で苦勞し、そこからなんとか今の職を手に入れるまでも大変だったので、まだ、不安定な地位にいる人たちが安定した職につけるのであれば、良いことだと思います。（女性、47歳）
- ・リーマンなど、個人の力を超えた困難には、一求職者はなすすべもないため国のバックアップは必要だから。（女性、49歳）

【「評価しない」】

- ・氷河期世代だが、結局募集をしているのはスキルがあり、活躍できる要員であり、氷河期に本当に機会損失で不遇な処遇になり続けている人の採用とはいえない。（男性、45歳）
- ・あまりに狭き門だから。救われるのはほんの一握りしかいない。（男性、44歳）
- ・遅すぎる。今更この世代に対して何をしても皆ヤル気が出るわけがない。氷河期世代をバカにしすぎ。不快。（男性、47歳）
- ・今更という気持ち強い。定職につけず結婚を諦めてきた人もいると思う。もっと若い年齢の時に支援をしていれば、その人たちの未来も違ったと思う。（女性、43歳）
- ・今更の政策。焼け石に水どころか、我々世代のこれまでの人生に油を注ぐ行為。（女性、45歳）

回答者属性

|              | 回答者数 | 性別    |       | 雇用形態  |       | 従業員規模   |         |
|--------------|------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|
|              |      | 男性    | 女性    | 正社員   | 非正社員  | 1000人未満 | 1000人以上 |
| ゆとり (24~34歳) | 220  | 50.5% | 49.5% | 80.0% | 20.0% | 51.2%   | 48.8%   |
| 氷河期 (35~49歳) | 584  | 61.0% | 39.0% | 75.5% | 24.5% | 60.2%   | 39.8%   |
| バブル (50~55歳) | 272  | 81.6% | 18.4% | 71.3% | 28.7% | 54.4%   | 45.6%   |



会社概要

社名：株式会社 日経HR 代表者：代表取締役社長 篠原昇司  
 所在地：〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-6-3 神田三菱ビル  
 資本金：7,000万円 設立：1979年(昭和54年)3月1日 URL：<https://www.nikkeihr.co.jp/>  
 株主と出資比率：株式会社日本経済新聞社 92.3% 株式会社日経BP 7.7%  
 事業内容：あらゆるメディア・手段を通して、職業・仕事に関する情報流通の場を提供します。  
 1. 求人情報サービス 2. 書籍・雑誌の発行 3. コンテンツ提供 4. 人材紹介(厚生労働大臣許可：13-ユ-301393)